

役員室 だより

“世界トップ10”に向けた部局 マネジメント及び人材獲得支援策

大阪大学は、創立100周年を迎える2031年には、研究型総合大学として世界のトップ10に入ることを目指して、以下の大きな3つの柱に沿って大学改革を進めています。

- 1) グローバルな人材、優秀な(若手)研究者を育成すること。そのためには、研究環境の充実はもちろんのこと、研究費、給与、報奨制度といった面で、学外からは「大阪大学へ行きたい」「大阪大学に憧れる」、学内では「大阪大学はやりがいがある」など、魅力ある大学にしていく必要があります。
- 2) また、総長のトップマネジメントと、部局長や事務長の裁量をうまく機能させ、個々の部局が自ら積極的に常にワンランク上を目指す活気ある取組みができるよう、構成員に促すことが重要です。そのための支援をしていきます。
- 3) さらに、一番大事なことは個々の教職員が大阪大学をよくするという意識と自覚をもって教育、研究、職務に邁進していくことです。

そのため、次の具体的な支援策を実行していきます。

1. 卓越した外部人材の招致

◆グローバル化推進教授招へいプログラム

教員の多様化並びに国際化、学部・大学院学生教育のグローバル化の推進を支援することを目的として、国際的に評価されている外国の研究型大学で学位(Ph.D.)を取得し、世界トップレベルの優れた業績をあげている研究者を大阪大学教授として新たに雇用する場合に教育研究経費を交付する。

◆大阪大学特別教授制度

本学が国際競争力のある教育・研究の世界的拠点となるため、本学の未来戦略を推進していく上で、卓越した業績を活かし、先導的な役割を担う教員に対し、「大阪大学特別教授」の称号を付与するとともに、その活動を支援する手当として「特別教授手当」を支給する。

2. 内部人材の更なるパワーアップ

◆間接経費配分の見直し

研究者の裁量権を強めることにより、研究の推進を図るという観点に基づき、研究者に間接経費全体の20%が配分されるような配慮を部局長に要請する。

◆研究者に対する報奨制度の拡充

科学研究費補助金などの競争的資金を新たに獲得した研究者や、多額の間接経費を獲得した研究者を報奨するため、新たに大阪大学総長顕彰により表彰し、報奨金を支給する。

◆大阪大学特別教授制度

※概要は、上記「1. 卓越した外部人材の招致 ◆大阪大学特別教授制度」とおり。

3. 部局マネジメントの充実

◆部局長未来戦略裁量経費の配分

本学の未来戦略実現のため積極的に取り組み、優れた成果をあげた部局に対して、「部局長未来戦略裁量経費」として年度当初に500万円を配分する。

◆事務(部)長未来戦略裁量経費の配分

部局運営、大学全体の強化等に積極的に取り組み、優れた成果をあげた部局の事務部及び本部事務機構の各部等に対して、「事務(部)長未来戦略裁量経費」として年度当初に100万円を配分する。

支援策の詳細は
学内専用サイト「マイハンドай」をご覧ください。

マイハンドай
>総長から大阪大学構成員のみなさまへ

情報推進機構の設置

4月1日に、本学の情報に関する方策全般について企画及び運営を行い、情報基盤の整備、情報化の推進及び情報サービスの高度化を図ることを目的として情報推進機構を設置しました。

これまでは、情報担当理事のリーダーシップのもと、情報企画室が中心となり全学的な情報に関する方策の企画及び運営並びに全学基幹システムに係る情報基盤の整備などを行い、また他方では、サイバーメディアセンターが大学の情報通信網であるネットワーク及び教育に係る情報基盤の整備を行ってまいりました。情報推進機構を設置することにより、これらの業務を情報担当理事の統括のもと、サイバーメディアセンターが中核となって情報推進機構が一元的に行うとともに、大学全体の情報システムに関する全学支援業務を行うこととなります。

これにより、本学の情報に関する方策の策定とその実現に向けた基盤整備を更に推進させるとともに、本学の情報に関する方策全般に係る経費削減を図ることを目指します。

理事・副学長(産学連携・情報担当) 馬場 章夫

大阪大学の「ブランディング計画」とは
第3回広報ネットワーク連絡会を開催

2月19日、吹田キャンパスコンベンションセンターにて広報ネットワーク連絡会を開催しました。第3回目となる今回は、各組織の広報責任者や広報業務に興味を持つ教職員ら約90名に参加いただき、「ブランディング」をキーワードに講義形式で実施しました。

「ブランディング」の定義、考え方、実践例や、大阪大学ロゴのブランディング活用方法など、学内で実際にブランディングをもとに様々な活動をしている学内の3名の教員から具体的な話題提供があり、「ブランディングでは、まず現状を把握し、そのうえで、どのような情報を誰に伝えるのかを考えることが重要」と意識を共有することができました。

最後に実施したアンケートでは、それぞれのコンテンツの理解度も高く、「シンポジウムの参加者を増やすために、次回からはプロセスを踏んだ募集が実践できそうだ」「主体がどこにあるか、どう見られたいか、どう伝えたいかを考えることが重要であることが分かった」との意見がありました。これからも、広報ネットワークを通じて、大阪大学の様々な広報情報を皆さんに積極的に提供していきたいと考えています。

当日の配付資料は、学内専用サイト「マイハンドアイ」に掲載しております。

マイハンドアイ>本部事務機構>広報関係
>広報からのお知らせ

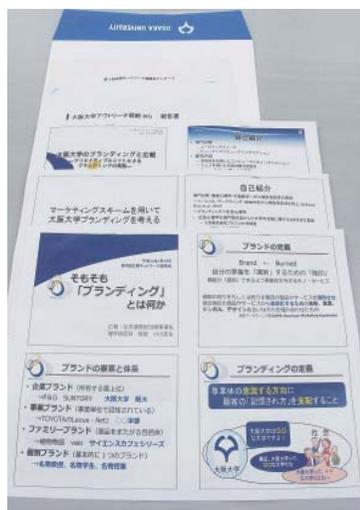
理事・副学長(広報・社会学連携担当) 江口 太郎



大型教育研究プロジェクト支援室
平井准教授による講演



真剣な表情で聴講する各
局広報担当者



当日の配付資料

～学び続ける大学職員を目指して～

「大阪大学未来セミナー」今年も開催します!

「大阪大学未来セミナー」は、大阪大学の職員が、大学の多様なミッションや大学と社会との関わりなどについて、大阪大学の現在の姿に照らしながら理解と関心を深め、広い視野と主体的な自己研鑽の姿勢を養うことを目的とした研修です。

平成25年度は6～8月の間、昨年度と同様、全8コマで実施予定です。詳しい内容は、決まり次第お知らせします。皆さまの積極的なご参加をお待ちしております!

様々な角度から大学のミッションや課題に迫るコース内容
これまで知らなかった「大阪大学の姿」を捉える!

平成 25 年度の研修内容 (予定)

国立大学の財政とガバナンス	大学における研究と研究者とは?	大学における危機とリスク(基礎と実践)
大学図書館の多様化する役割	大学教育の使命(現状と課題)	大学の国際化と異文化理解
医療現場から学ぶ大学病院の「ヒト・モノ・カネ」の仕組み	大阪大学の広報とブランド戦略: 見せるから魅せるへ	職場としての大学(人材育成、目標共有など)

大阪大学未来セミナー第一期生(平成24年度受講者)に質問。
「参加してみてどうでしたか?」



土出 郁子さん
(附属図書館吹田地区図書館サービス課(生命科学図書館)専門職員(図書系))
大学の中の様々な「専門性」が見えてきて、それまであまり意識してこなかったことにも目が向くようになりました。また、大学全体の動きの中で図書館の役割を見つめ直し、将来に向けて何をすべきか、真剣に考えるきっかけになったと感じています。



永見 一彰さん
(微生物病研究所会計係 事務職員)
「大学のことをもっと知らない」と思いました。もしこの研修への参加を迷っている後輩がいたら、「自分の目の前の仕事も大切だけど、大学の仕事って驚くほど色々あるぞ!知らない阪大を知れるで!」と背中を押ししたいですね。



稲角 直也さん
(理学部技術部分析測定室 技術職員)
この研修を通じて、学内の色々なところに職種を超えた仲間が増えたのは大きな収穫でした。自分に無い知識や視点を取り入れて、新しいサービスとか、やりたい仕事を実現できる可能性が広がったと思います。

白熱のグループワーク!



国立大学の役割について
ディスカッション

直に見て、聞いて学ぶ



医学部附属病院での
ドクターヘリ見学

「参加型学習」で双方向の学び



阪大PRのための
プレゼン資料作成

★第一期生へのインタビューの詳細や、平成24年度の研修の様子を、マイハンドアイに詳しく掲載していますので、是非ご覧ください。

マイハンドアイ>大学本部事務機構>プロジェクトマネジメントチーム(PMT) 関係

総務企画部経営企画課 Project Management Team (PMT)